

- 1 課題名 広域沿岸海況の短期変動予報事業
- 2 区分 委託
- 3 期間 平成17年度～平成19年度
- 4 担当 資源海洋部（中地良樹）
- 5 目的

黒潮流路の短期変動および沖合から沿岸域への暖水波及などの海況変動を把握する。

6 成果の要約

(1) 試験方法

熊野灘の宇久井・檜野の定置網漁場（10m）、勝浦の和歌山県栽培漁業センター（取水）および串本東岸ブイ（10m）による水温連続観測から捉えた水温ジャンプと、NOAA衛星画像から得られた黒潮流路・暖水波及の関係について検討した。

(2) 成果の概要

2006年11月前半は、串本東、檜野、勝浦、宇久井の各地点で殆ど変化なく経過したが、17日に串本東で約2℃の水温ジャンプが起こり、檜野で1日遅れて18日から21日まで約2℃昇温した。しかし、北部に位置する勝浦と宇久井では17～18日頃の水温ジャンプはみられず緩やかに降温した。11月15～29日のNOAA衛星画像および串本一浦神の潮位差から、潮岬周辺域に暖水波及があった17日から21日までに潮位差が50cmから35cmに低下した。21日には檜野付近（串本東）とその東沖とに2つの擾乱がみられ、これらの擾乱の発生と通過が串本一浦神の潮位差の低下に繋がったと推察できる。また、これと符合して宇久井と勝浦沿岸域の水温低下が認められた。

12月は宇久井で6日、8日、26日にそれぞれ1℃前後の水温ジャンプがあり、串本東で9日と27日に1～2℃程度の水温ジャンプがみられた。宇久井から串本への暖水伝播速度は、それぞれ25cm/sec、33cm/sec、30cm/secであった。

2007年1月は串本東で22日の17℃から24日に19℃まで上昇し、勝浦は24日から緩やかに上昇があり、宇久井は23～25日に3℃程度の日変動の大きい水温ジャンプが起こった。NOAA画像によると、1月18日に東進してきた小蛇行の東端が潮岬に係り、22～23日に黒潮は潮岬沖で離岸した。24～25日に黒潮系暖水が大王崎沖から内側反流となり潮岬沖へ達している。これが串本東と勝浦・宇久井における同時期の水温上昇に繋がったと推察される。また、串本一浦神の潮位差をみると、東進してきた小蛇行が潮岬に係る17日までは、潮位差が40～50cm台で推移するが、18日以降は30cm台に低下し、小蛇行の冷水部が潮岬を通過中の23日以降は20cm台に小さく

なった。串本東と宇久井の同時期の水温ジャンプの要因は、潮岬沖の黒潮離岸に伴う内側反流であることが潮位差から確認できた。

7. 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

沿岸海況の変動として漁業者に情報提供を行った。

(2) 成果の結果

1都5県による共同研究会にて報告した。